大学教育再生加速プログラム（AP）採択事業シンポジウム

～　国際バカロレア修了生の国内大学進学と今後の展望について　～

◆日　　時　　平成２９年9月２１日（木）　１３：００～１７：００

◆場　　所　　岡山大学創立五十周年記念館

プログラム

１２：３０～　　受　　付

１３：００～　　Ⅰ 開会の挨拶　　岡山大学理事・副学長（教育担当）　佐野 寛

Ⅱ 講　　演

１３：１０～１３：３０　■国際バカロレアの推進と国内大学における活用について
文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室長　原田 大地 氏

１３：３５～１３：５５　■国際基督教大学における国際バカロレア修了生の受け入れについて
国際基督教大学 アドミッションズ･センター長　森島 泰則 氏

１４：００～１４：２０　■横浜市立大学における国際バカロレア修了生の受け入れについて
横浜市立大学 アドミッション課専門職・学務准教授　出光 直樹 氏

１４：２５～１４：４５　■岡山大学医学部医学科における国際バカロレア修了生の受け入れについて
岡山大学医歯薬学総合研究科教授　松川 昭博

１４：５０～１５：１０　■岡山大学における国際バカロレア修了生の受け入れについて
岡山大学アドミッションセンター准教授　MAHMOOD SABINA

１５：１５～１５：３５　■国際バカロレア一条校が国内の大学に望むこと
仙台育英学園高等学校教諭　石田 真理子 氏

１５：３５～　　休　　憩

１６：００～　　Ⅲ パネルディスカッション

モデレーター

岡山大学副学長（入試改革担当）　田原 誠

パネリスト

文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室長　原田 大地 氏
国際基督教大学 アドミッションズ･センター長　森島 泰則 氏
横浜市立大学 アドミッション課専門職・学務准教授　出光 直樹 氏
仙台育英学園高等学校 教諭　石田 真理子 氏
岡山大学 医歯薬学総合研究科教授　松川 昭博
岡山大学 アドミッションセンター准教授　MAHMOOD SABINA

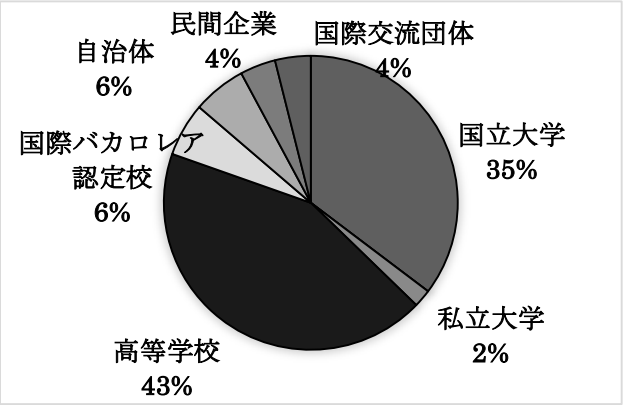
１７：００　　閉　　会

大学教育再生加速プログラム採択事業シンポジウム
～　国際バカロレア修了生の国内大学進学と今後の展望について　～

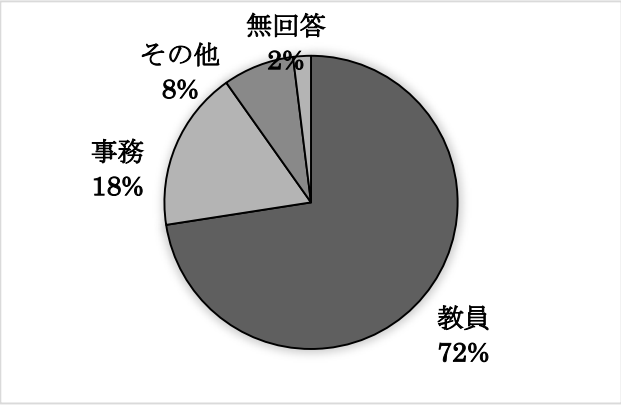
日　　時　　平成２９年９月２１日（木）　１３時００分～１７時００分
場　　所　　岡山大学創立五十周年記念館

参加者数　　７２名（学外６２名　　学内１０名）
アンケート回答者数　５１名

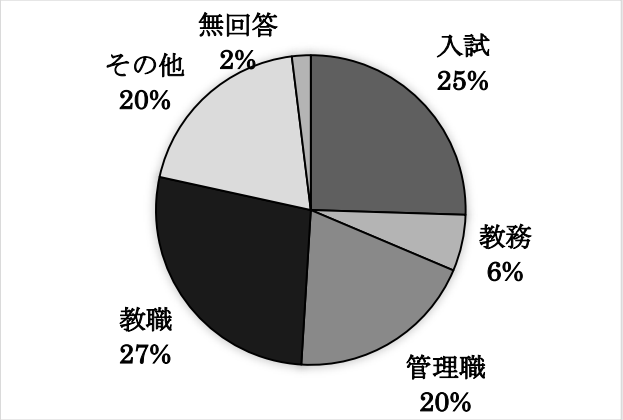
問１　所属を回答ください。



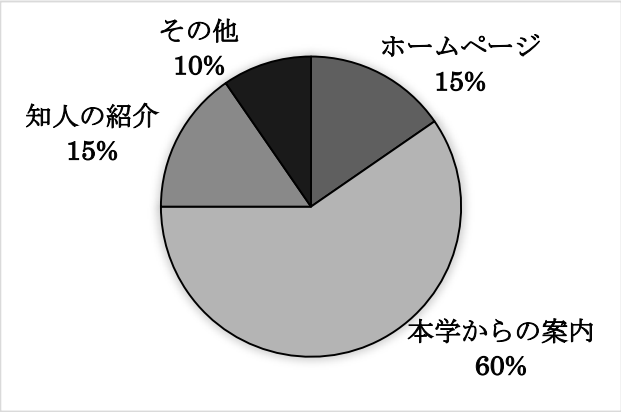
問２　職種をご回答ください。



問３　役職（ご担当のお仕事）を回答ください。



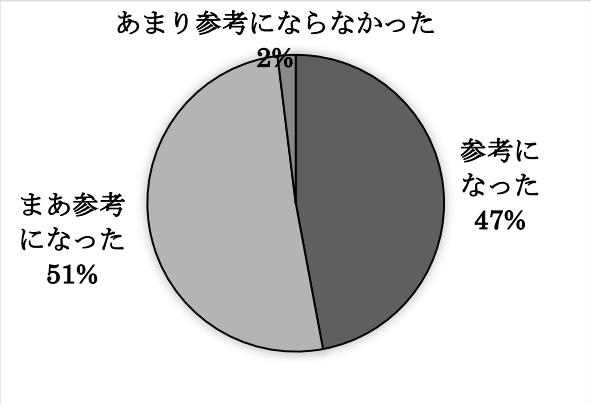
問４　本日のシンポジウムの開催をどちらで知りましたか。



問５　本日のシンポジウムはいかがだったでしょうか。それぞれについて回答ください。

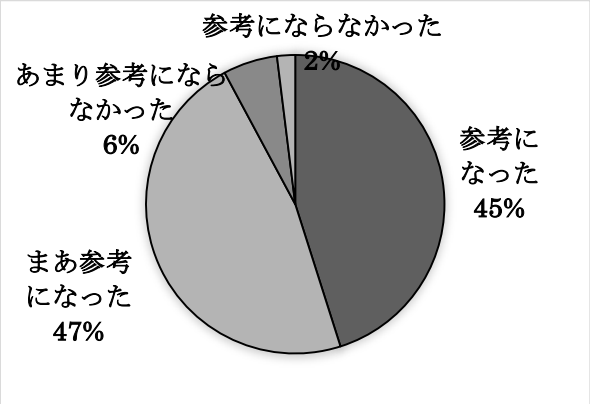
■国際バカロレアの推進と国内大学の活用

文部科学省　　原田　大地



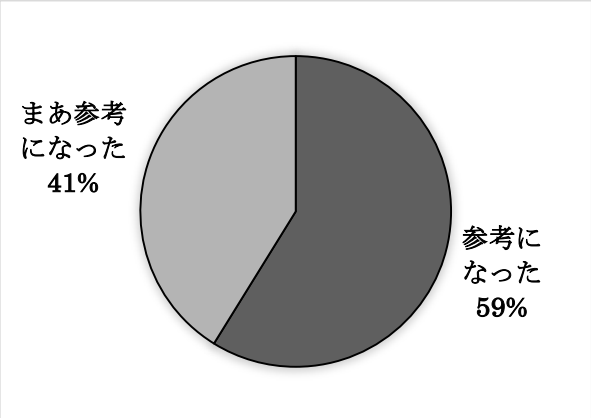
■国際基督教大学における IB 修了生の受け入れ

国際基督教大学　　森島　泰則



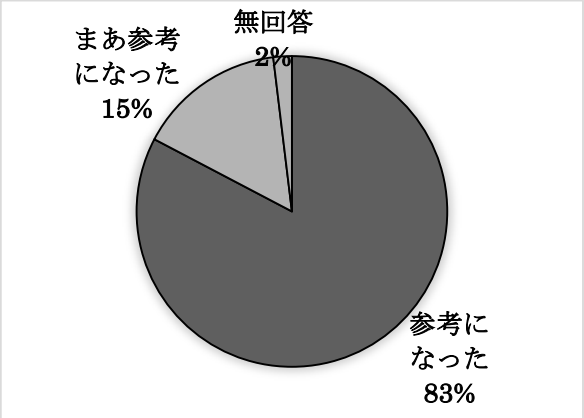
■横浜市立大学における IB 修了生の受け入れ

横浜市立大学　　出光　直樹



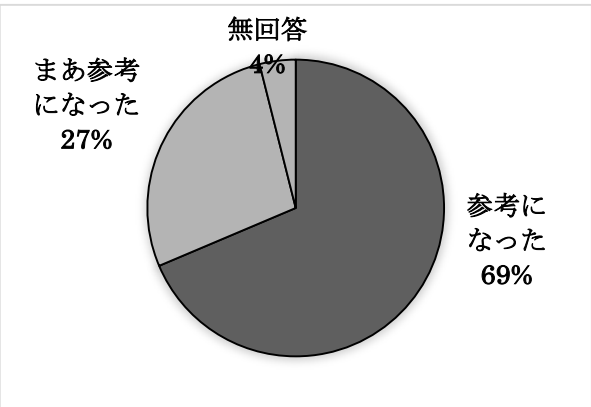
■岡山大学医学部医学科における IB 修了生の受け入れ

岡山大学　　松川　昭博



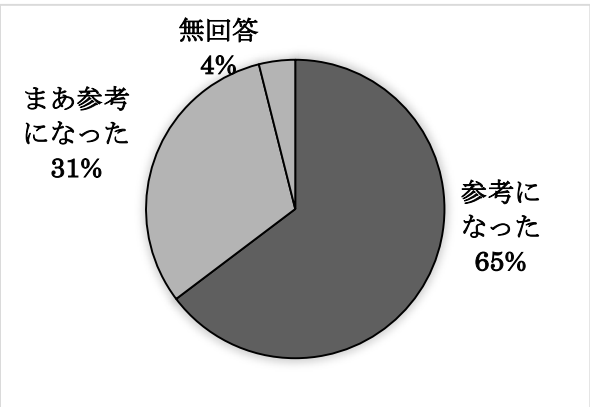
■岡山大学における IB 修了生の受け入れ

岡山大学　　MAHMOOD　SABINA

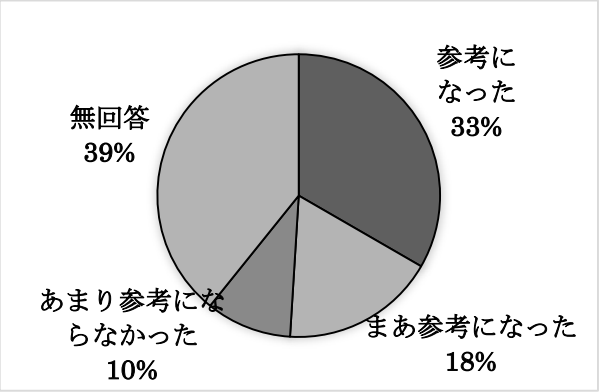


■国際バカロレア一条校が国内の大学に望むこと

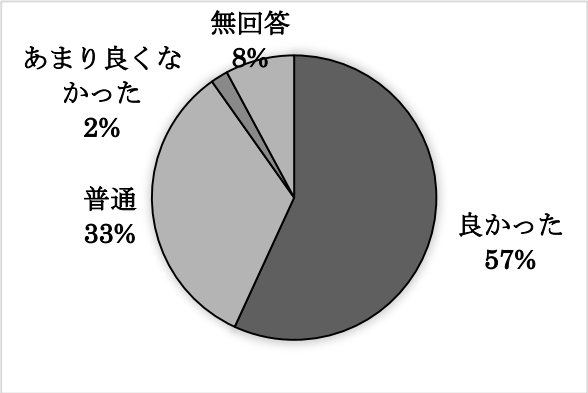
仙台育英学園高等学校　　石田　真理子



■パネルディスカッション



問６．全体の運営はいかがだったでしょうか。



・発表（講演）後に質問時間（5 分以内）を設けてほしかった。質問のみ受付又は質問用紙を事前に配布し、休憩後にその質問に答える方法もあるのではないだろうか（時間の有効活用）

・休憩時間を 1 時間半か遅くとも 2 時間で 1 回入れてほしい。

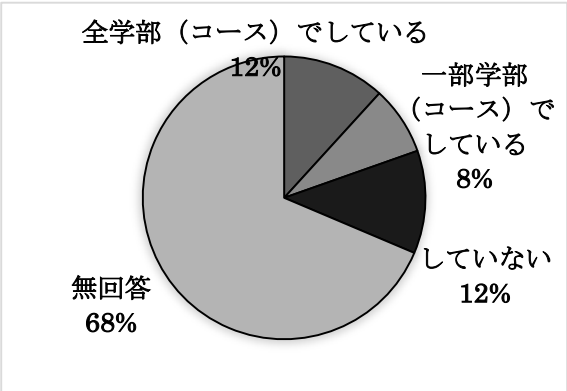
・パネルディスカッションがもう少し長くても良い。

・もう少しパネリストの意見を聞きたかった。

・モデレーターのマイクの音量が小さかった。

問７．大学関係者の方に伺います。

①貴学への IB 入試導入を検討していますか。



②IB 修了生の受け入れについての意見

・選択方法とともにカリキュラムの見直しや FD など、総合的な改革が必要だと感じる。

・先進的で素晴らしい。

・語学力をどのように測るかが課題であると考える。（日本語、英語ともに）

・多くの大学が若干名の募集となっていることからも、対象者が少なく、費用対効果の面で積極的な導入の推進をためらってしまう。対象者が少ないのに新たな入試制度を始めると、入試の複雑化にも繋がってしまう。

・国内と海外の IB 修了生の違いは何だろうか？IB 生（優秀な学生）を紹介していただきましたが、不適応を起こす失敗事例があれば知りたいです。

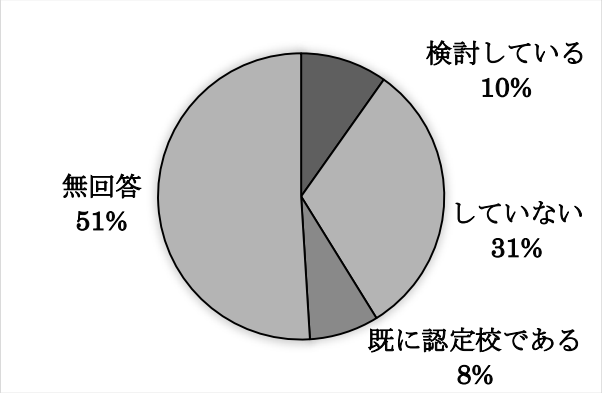
・IB 生を受け入れた後、学生のモチベーションを維持させるためにも大学ができることは何かを模索しています。相談できる場を設けるだけでいいのか、放っておいても学生自ら行動を起こすのか、先行している大学の情報を共有させてもらえるとありがたいです。

・学ぶ場の選択の機会を増やすべきである。IB 教育の素晴らしさはわかるが、IB 修了生に過剰に期待すべきではないだろう。IB 認定校増という方針の中、最も肝心なのは教員養成である。本学も教育学部単科大学として貢献できるような IB 修了生受け入れを推進していきたい。

・今後受け入れるにあたり不安に感じることは受け入れた後のケアについてですが、本日お話を伺い参考になりました。

問 8. 高等学校関係者の方に伺います。

①IB 認定校になることを検討されていますか。



②IB 修了生の大学での受け入れについての意見

・文科省主導で、〇〇年までに受け入れを明確にし、拡大が取り組むことを要請すれば…？新学習指導要領の実施、英語で授業（４技能）、小学校英語導入、大学入試センターの改革に合わせた総合的な動きの中で、工程表をつくり実施していくべきである？

・IB 生の合格基準がかなり高いと思われる大学も日本ではまだまだ多く、海外の大学並みの基準になったら良いと思います。IB 生徒には、岡山大学を勧めようと思っていましたが、今日の入学後のプログラムの話もうかがって、さらに勧めようと思いました。

・公立校では、教員・生徒に IB 修了のためのシステムが組めない。地域の期待は、IB 入試よりも国公立大、私大有名校にある。ただ、IB 修了生の活躍・活動はうらやましい。この様な生徒を育成するためのプログラムは作りたいが、人的補償（人的スキル）がないと無理だろう。

・これだけ IB を重視する方向性であるなら、公立校でもできるよう教員の再教育で資格を取れるように体制を整えるべき。多様性は、需給のアンバランスなど、生徒を迷わせることになる。学習指導要領をすべて IB にするのが良いのでしょうか。

・IB 修了生が大学においても核となる学生となり得ることがわかりました。グローバル社会に向け、大学も多く門戸を広げていくべきだと思います。

・よりシンプルな受け入れをお願いできたらと思います。

・積極的受け入れをお考えなら、もう少し基準を下げていただきたい。

・日本国内の認定校を増やしてもいいが、IB 生が IB 入試だけでなく、他の入試でも大学進学を実現できる環境も整えてほしい。（仙台育英学園、石田先生のお話を聞いて心配になりました。）

・定員が少ないと感じました。

・日本語 DP 生を積極的に受け入れていただきたい。

・実際に IB 生の人数が少ないために大学での IB 入試枠が狭いことは理解できる。しかし今後もそうなのだろうか。導入する大学が増えるのはいいが、各大学での IB 入試枠を広くしないと（IB 入試を重視）、高校（一条校）は、IB 校になる決断ができないと思う。

・IB カリキュラムの内容をご理解いただき、受け入れに際しては、科目試験は課さず、面接や小論、適性などで判断してほしい。

・IB 教育内容、プログラムの実態をもっとお知りいただけると、入試への取り込みが進むのではないかと思います。

・IB 入試において受験生の負担が多大にならない入試を検討いただけましたら幸いです。（発表にもありました EE の要約等）

・大学における DP の単位認定について検討していただきたい。

・IBDP が医学部進学だけに収れんしないかと危惧しています。

問９．国際バカロレア（ディプロマ・プログラム）について何か知りたいことはございますか。

・一条校の IB 導入の見直し。特に公立高校。
・一条校の IB 校のネットワークなどを作れると良いと思います。
・TOK について→教科指導にどう取り入れるか。
・IBDP に必要な教員の育成について。IBDP を導入するための教員課程について。
・読み替え可能科目の整合性。どう考えても（例えば）Biology SL が生物基礎と読み替えられないのでは？
・IB のスコアは公正・フェアであるとして、大学は IB 校独自の特色についてどのように見ているのか（言い換えると、IB 校ならどこでも良いのか）協定や指定校推薦の可能性。
・科目認定による大学進学の話が強調されていましたが、これは、高校サイドの教育体制の自信のなさのように聞こえました。背景には何があるのでしょうか。
・日本語 DP 修了者が国内の大学に進学する背景。
・国内 IB 校同士の競合の問題（特に国公立と私立）

問 10．その他、本日のシンポジウムに関してご意見・ご感想等、自由にご記入ください。

・他大学の IB について知れて良かった。
・国内大学進学についてのシンポジウムだが、高校としては学生の活動（岡大・医学部）の方がより興味深かった。IB 推進のためには、高校へ向けて学生の活動、勉強（資格取得も含めて）をより広報した方が良い。
・実際の生徒さんのデータやインタビューなどが大変参考になりました。
・これから入試制度の導入を検討するにあたり、仙台育英高校のような高校側の生の希望が聞けたことは有意義であった。今後は、国内の認定校だけでなく海外校からも人材獲得するためにどのような入試制度が求められるのかという点についても知っていきたい。
・IB プログラムの現場での実践についてもっと知りたい。どんな授業をしているのか評価はどうなのかなど。
・IB をすることによって生徒たちがどう伸びたのかのデータ追跡、検証の詳しい資料が見てみたい。
・岡山県内の普通科の進学校では、IB プログラムを取り入れるのは難しいのではないか。IB の中の考え方を取り入れるのは多少できると思います。
・本校での IB 認定校実現は厳しいと思いますが、様々な学習活動で IB 的な仕掛けを導入して、生徒のスキルアップを図ることはできそうです。
・本学では、現在 IB 入試の導入に向け検討中であるが、先行大学の実例、受け入れ後の課題等の話、また高校側から大学への要望等も聞くことができ、大変参考になりました。
・狙いがなんなのかよくわかりませんでした。
・IB 導入の難しさを知るとともに、この教育が必要なことも痛感した。IB 取得ができれば良いが、取得そのものを目指すのではなく、そのような教育を実践するという形で、高校での教育を変えていきたいと思う。
・大学入学後も IB 生徒が活躍している事例を伺うことができてよかった。
・バカロレア（IB 取得）についての国内大学での入試等における評価と、国内の高校での導入の動向は、互いに大きく関係していることを再確認しました。県立高校でどこまで導入できるか、課題は多いと思いますが、生活の場が国際的になる今後には不可欠だと思います。
・IB 入試 11 月頃に IB 生徒の能力が活かされる AO 入試や推薦入試が重なるため、IB 生徒の入試幅が狭くなることが懸念される。
・IB の特に HL のスコアを大学にて単位認定していただけるよう、よろしくお願いします。
・とても勉強になりました。参考になりました。ありがとうございました。（４件）
・来年は IB 学会と連日開催にしていただきたいです。

大学教育再生加速プログラム採択事業シンポジウム実施報告
「国際バカロレア修了生の国内大学進学と今後の展望について」

開催日時:平成 29 年 9 月 21 日(木) 13:00～17:00
開催場所:岡山大学創立五十周年記念館
主　　催:岡山大学アドミッションセンター
参　　加:国内国際バカロレア校等、県内高等学校、国際バカロレア受入大学等 72 名
概　　要:

我が国では、「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」(平成 25 年 6 月閣議決定)に基づき、国内における国際バカロレア認定校等を 200 校に増加させることを目標としてさまざまな取り組みが実施され、認定校は着実に増加してきています。また、平成 25 年度からは、ディプロマプログラムの科目の一部を日本語でも実施可能とする「日本語 DP 課程」が企画・導入され、この課程の実施校も、今後大幅な増加が見込まれています。このため、国内の大学には、今後、これまで以上に多数の国際バカロレア修了生の進学が見込まれます。また、進学先についても、国内外からの国際バカロレア修了生を受け入れてきた国際関係のコースばかりでなく、日本語を教授言語とするさまざまな学部や分野へも進学が期待されます。

本シンポジウムでは、国内の大学として、国際バカロレア修了生を積極的に受け入れる意義、国際バカロレア教育を生かすための対応、大学の教育改革に与える影響などについて情報の取りまとめと意見交換などを行うため、文部科学省、高等学校(国際バカロレア認定校)、国際バカロレア修了生を受け入れてきている大学から講師をお招きし、それぞれの視点からご講演をいただきました。

講　　演:

国際バカロレアの推進と国内大学における活用について
　文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室長　原田 大地 氏
国際基督教大学における国際バカロレア修了生の受け入れについて
　国際基督教大学 アドミッションズ・センター長　森島 泰則 氏
横浜市立大学における国際バカロレア修了生の受け入れについて
　横浜市立大学 アドミッション課専門職・学務准教授　出光 直樹 氏
岡山大学医学部医学科における国際バカロレア修了生の受け入れについて
　岡山大学医歯薬学総合研究科教授　松川 昭博
岡山大学における国際バカロレア修了生の受け入れについて
　岡山大学アドミッションセンター准教授　MAHMOOD SABINA
国際バカロレア一条校が国内の大学に望むこと
　仙台育英学園高等学校教諭　石田 真理子 氏

文部科学省からは、国際バカロレア教育の振興・普及や大学進学の展望や政策展開などについてご講演いただきました。

次に、大学からは、従来から、多数の国際バカロレア修了生を国内外から受け入れてきた、国際基督教大学から、国際バカロレア修了生受け入れの理由やこれまでの状況、今後の受け入れについてのお考えなどをご報告いただきました。

また、平成 26 年度から国内の国際バカロレア修了生も対象とした国際バカロレア入試を実施している横浜市立大学からは、入試の実施と入学生の状況、今後の受け入れ方針などについてご報告いただきました。

さらに、国立大学として最初に国際バカロレア修了生を受け入れる入試を始めた岡山大学からは、医学部医学科における受け入れの考え方と状況を報告するとともに、大学全体の入学生の状況などについて報告しました。

国際バカロレア認定校としては、「日本語 DP 課程」を最初に取り入れ、平成 29 年 3 月に初の卒業生を輩出された仙台育英高校から、国内大学の国際バカロレア修了生の受け入れについてご意見やご提案を報告していただきました。

この後、講演者の方々に、岡山大学アドミッションセンター長の田原誠をモデレーターとして、1)日本語 DP 課程で学ぶ学生が身に付ける英語力、2)国際バカロレア修了生を受け入れる大学入試制度を主な話題として討論を行いました。

討論内容：

［テーマ１］日本語 DP の語学（英語）力について

日本語 DP を実施する国際バカロレア校、仙台育英の石田氏から、英語による指導は２科目だけであるが、校内は、常に英語に触れる環境であることに加えて、英語で課題に取り組み、最終試験に合格するために、学生の英語力はかなり鍛えられていっているとの見解が示されました。また、参加された沖縄尚学校の宮城氏からは、全校で卒業までに英検２級以上取得を目指しており、英語科目についても相当な英語力がないと授業についていけないので、通常の学生より国際バカロレア生の英語の能力はかなり高いとの発言がありました。

大学からは、国際基督教大学の森島氏が、現在の当大学の語学プログラムシステムは日本語 DP 修了生に対応できるものではないが、今後柔軟性を持って対応できるよう取り組むとの方向性を示されました。また、横浜市立大学の出光氏からは、同大学は基本的に日本語で教育を行っているので日本語 DP 修了生の増加は、志願者の増加に繋がると考えている。また、日本語 DP であれ、英語 DP であれ、国際バカロレア教育の質的な部分に期待しているとの考えが述べられました。

文部科学省の原田氏からは次のような見解が示されました。「当省では日本語 DP を推奨しており、現在の２科目以上英語履修も緩和し、無くしていく方向での調整を考えている。日本語 DP と英語 DP では違いは生じると思うが、各大学のアドミッションポリシーに合致する学生を選抜すれば良い。日本語 DP と通常の英語 DP では語学力に違いが出る可能性はあるが、国際バカロレア教育は総合的に質が評価されているので言語の違いは関係ないと思われる。」

［テーマ２］国際バカロレア入試について

仙台育英の石田氏からは、国際バカロレア教育への理解が進み、出願要件が緩和してきているものの、課題論文の要約の提出等、受験生にとって過大な負担を課す入試もあり、大学側には見直してほしいとの意見が出されました。また、沖縄尚学校の宮城氏からは、

国際バカロレア生は通常クラスの学生に比べ相対的に学力は高いが、国際バカロレア生は最終成績のスコアに準じた評価になるため、国際バカロレアコースの中では相対的に低く見られてしまうとの問題が提起されました。両氏から、ディプロマ取得者だけでなく、大学側が必要とする科目について充分な成績を修めた者は出願できるシステムを検討してもらいたいとの要望がありました。

これらの国際バカロレア校からの意見について、出光氏から横浜市立大学の国際バカロレア入試について、出願資格としてディプロマ取得要件はあるが、指定科目の履修要件は設けていないこと、またディプロマ取得見込みで合格した者がディプロマを取得できなかった場合については考慮できる仕組みになっているとの説明がありました。今後国際バカロレアの科目履修者を受け入れるにあたっては、基準の設け方について検討しなければいけないと述べられました。この他、国際バカロレアの最終成績のスコアが低い場合は、国際バカロレア入試を避け、帰国子女入試で受験する国際バカロレア生もいることが報告されました。

森島氏からは、国際基督教大学では最終的な入試の判定は最終成績のスコアの点数だけではなく、経験を考慮するなど総合的な評価を行っているが、国際バカロレアディプロマ取得は条件なので、取得できなかった場合は合格取消となるとの説明がありました。

モデレーターの田原氏は、岡山大学では本年 10 月から受け入れを開始するグローバル・ディスカバリー・プログラムで、ディプロマを取得していない学生も受け入れていると紹介しました。

岡山大学の松川氏から、本学の医学科が課す面接は、学力検査では測れない医者としての適正を見るために実施しており、今後、面接のスコアと将来の学生の姿を比較することを検討しているとの報告がありました。

これについて出光氏から、横浜市立大学の医学科の国際バカロレア入試では、MMI（Multiple mini interview）の導入が検討されており、推薦入試での MMI の実施結果から、MMI の成績とセンター試験の成績には相関関係があると報告されました。

また、出光氏から、国際バカロレア教育の評価を促進するために、国際バカロレア科目の Higher Level については大学で単位認定できるように、文部科学省に制度を整えてほしいとの要望がありました。海外では認められている単位認定が、日本の大学で実施できないのは、特に海外からの国際バカロレア受験生をターゲットにしている大学にとって不利になっているとの意見が出されました。